

一九七七年以前出土の木簡（一七）

奈良・平城京跡左京二条二坊六坪

- 1 所在地 奈良市法華寺町
- 2 調査期間 第六八次調査 一九七〇年（昭45）七月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 坪井清足
- 5 遺跡の種類 都城跡



（奈良）

- 6 遺跡の年代 奈良時代の概要
 - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- ボウリング場建設にともなう緊急調査として、東院東南隅の南方で行なった。最近の知見では東院南方遺跡と称される範囲内にあり、藤原麻呂宅推定地の北に接

する坪にあたる。東院東南隅を対象とした宮第四四次調査の南で、同調査で検出した東二坊々間路の西側溝の南延長上に、東西一〇m、南北五〇mのトレンチを設定した。

調査の結果、建物八棟、柵四条、木樋暗渠二条などを検出した。東二坊々間路西側溝SD五七八〇の西は、建物の建て替えが多く見られ、また削平もあって、六坪の東辺を画する築地塀の痕跡は認められなかった。しかし、建物の規模などから見て、重要な地区であることは間違いない。西側溝と重複して掘立柱建物SB六五四五がある。桁行八間以上、梁間二間以上を数えるが、溝と同時期の可能性があり、溝の上に張り出しをもつ建物と考えられる。

木簡は、西側溝SD五七八〇から七九点、三棟の掘立柱建物、すなわちSB六五四四の柱掘形から一点、SB六五四五の柱掘形から一点、SB六五四六の柱掘形から二点、そのほかの小穴から二点の合計八五点出土した。

このうちSD五七八〇は、幅三・二m、深さ〇・六mを測り、溝の堆積は二層に大別される。木簡はこのうちの下層から出土した。この溝からは木簡のほかに、土器、木器、瓦などの遺物が多量に出

(3)

・「嶋主貨物 上主寸高
山寸首
日置属
〔五十カ〕

(7) ・「＜添下郡進米十石
＞六月十九日

157×22×4 033

・「津守大嶋百〔文カ〕今年八月
若麻統大國刀一今年

(93)×21×3 019

(8) ・「伊勢国川勾郡中止里

・「阿斗マ小殿万呂
同遊万呂

118×23×5 051

(4)

・「〔宇カ〕
マ安麻呂 布志
別〔人〕 秦人
丙麻呂 別君
秦人 麻呂
右七人

(9) ・「＜尾治国知多郡贅

・「＞白髮マ馬見塩一斗

153×21×8 032

・「呂麻苗張大
呂麻得真字 柳大張尾上

(10) ・「備後国三谷郡

・「八升

(104)×20×3 019

高田少万呂卅

154×37×3 011

(5)

・「六 物マ得万呂卅
高田少万呂卅

(11) ・「郡車持郷車持里戸主海マ銀持
戸口海マ安倍御調須々腊一斗五升
三年八月十八日

(145)×24×4 081

・「夫 天天
天天

(132)×(26)×3 081

(12) 「＜交易錢百

(87)×20×4 039

(6)

・「月料四 二日 六日 七日 廿五日
〔給カ〕定 四斗一升

312×26×5 011

(13) 「＜津守山猪

(83)×16×4 039

